

# 河川における外来魚対策 の事例集

平成 25 年 12 月  
国土交通省  
河川環境課



## はじめに

---

近年、強い魚食性を示す北米原産のコクチバスが生息域を拡大し、在来生態系への新たな脅威となりつつある。本種はすでに全国的に広まり、大きな影響・被害を与えた止水性のオオクチバス、ブルーギルに比べ、より流水環境に適応した種である。このため、遊泳力が強く、流域の広い範囲に拡散しやすいことが懸念される。さらには、アユなど水産有用魚種への食害を通じ、鵜飼漁などの観光資源に影響を与えることで、ひいては地域経済への打撃も与えかねない。

こうしたコクチバスの影響懸念は、かつてオオクチバスが我が国の水圏生態系に与えた大打撃を彷彿とさせるとともに、後代へ伝えるべき郷土の自然を取り返しのつかない方向へ導く恐れが考えられる。

現在、さまざまな利害関係の中で物議を醸した外来魚問題は、世論の高まりを受け、バス類やブルーギルを「特定外来生物」として指定し、飼養等を禁じた「外来生物法」の施行に至っている。さらに、外来魚のみならず外来種全般の問題は、各種メディアを通じて広く社会に一般化してきており、国内外来種問題へと議論が発展しつつある。また、全国各地で外来魚駆除活動が展開され、在来魚の個体数回復とそれに伴う魚食性鳥類の営巣など、食物連鎖を通じた生態系の回復事例も報告されている。

一方、こうしたオオクチバス、ブルーギルを主な対象に行われる駆除対策は、そのほとんどが閉鎖性水域での事例であり、コクチバスが生息する流水環境下での事例はほとんどない。また、前者が電気ショックボートの導入など技術的にも進展しつつあるのに対し、後者のうち、特にコクチバスについては生態的知見の整備途上であり、対策が遅れているのが現状である。

本書はこうした経緯から、コクチバスに主眼を置きつつ、オオクチバス、ブルーギルのサンフィッシュ科3種を対象に、駆除対策の考え方やその事例についてとりまとめたものである。なお、事例は、コクチバスの顕著な増加がみられ、瀬・淵などの多様な河川環境を含む阿武隈川をモデル河川として取り上げた。

本書の位置づけは以下に述べるとおりである。

河川において外来魚対策を実施しようとする市民・市民団体、地方公共団体、河川管理者など、あらゆる主体が利活用可能な事例集として

モデル河川(阿武隈川)における事例をふまえながら、外来魚の生息実態に関する現況把握、並びに駆除方法についての効果的・効率的な手法の整理として

今後の調査・研究による新たな知見の蓄積、あるいは講じた対策の効果検証により、さらなる対策の発展へと完成されていく土台として

本書が、河川の現場において外来魚対策を実践しようとする人びとの一助となることを願い、ここに刊行するものである。

平成25年12月